

小さな村の150年の軌跡

～ヘッドライト・テールライト～

大山

蒜山

中和地域

面積:4,773^{ヘクタール}
(R6.4.1(住民基本台帳))
人口:550人
世帯数:243世帯
高齢化率:46^{パーセント}
小学校児童数:14人

～私たちは「どこからきたのか、
どこにいるのか、どこに行くのか」～

人は「時代の子」です。

その時代に、その境遇を
懸命に生きた、小さな村の人々

その時々 of 社会的背景と、
時代とともに変化していった暮らしをたどりながら
今と未来を考えてみたいと思います

小さな村「中和」の始まり

【明治の時代とは】
「富国強兵」…西欧をモデルとして、資本主義経済と植民地支配が、極東の国（日本）でも始まった。

2万3千年前ごろ 狩猟採集民が生活し、広域的な交流もあった(岡山理科大が中和を発掘調査)

〈1872年〉徴兵令を發布

1872年(M5)
〈152年前〉

中和地域の人口:774人
…全国初の戸籍調査を実施
(総人口3,312万人)

1850年頃、近代的な油田がつけられた

〈1872年〉「学制」を公布(明治の後期には、95%の子どもが小学校に通うようになった)

〈1873年〉日本国籍が制定され、「日本人」という明確な実態ができた

1877年(M10)
〈147年前〉

寺子屋を集めて、5ヶ村連合(別所・吉田・下和・真加子・初和村)の「中和小学校」を、湯の谷に開校

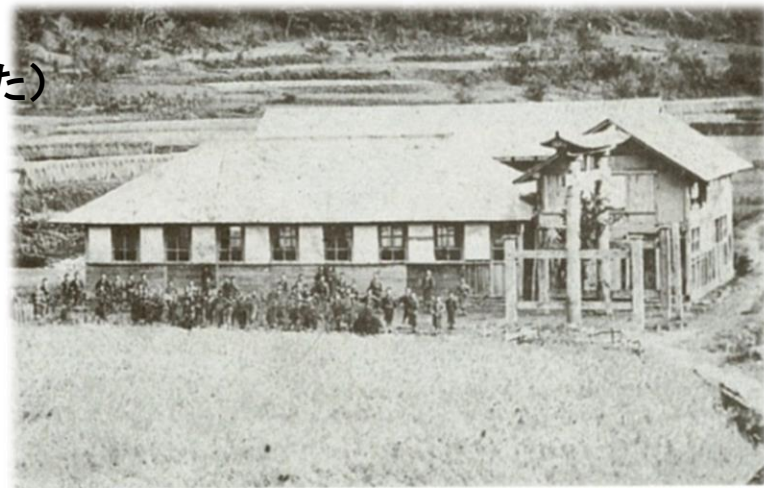
〈1878年〉区政を廃止して「町村制」を実施(各村に「戸長役場」を設置)

1881年(M14)
〈143年前〉

吉田の鉄山が廃業
(これをもって、「タタラ生産」は終了した)

「中和」の由来

儒教の経典「四書」(大学・中庸・論語・孟子)の一つ『中庸』の一節、“中和を致せば、天地位し、萬物育す”からとったもの。簡単言えば、「人は、もともとは喜怒哀楽もなく偏っていない(中)。これらの感情が発しても、節度をもち偏りがなければ全てに適う(和)。「中和」を推し進めて極めれば、世界は安泰で、人も物も皆その生を遂げることができる。」という意味。



洋風となった明治40年代の校舎

人口増加と戦争の時代

1889年(M22)
〈135年前〉

5ヶ村が合併して「中和村」が誕生
人口:1,027人

〈1889年〉市町村制施行
【明治の大合併】
71,314町村⇒15,859市
町村に減少

〈1894～95年〉朝鮮出兵と「日清戦争」勃発

〈1896年〉伝染病が大流行(赤痢による死者は2万2千人、腸チフスの死者が9千人)

1903年(M36)
〈121年前〉

人口:1,108人

〈1903年〉ライト兄弟が有人飛行に成功

〈1904～05年〉日露戦争が没発

1908年(M41)
〈116年前〉

腸チフス・赤痢が発生
(数名が死亡し、M43年まで続いた)

〈1910年〉韓国併合

〈1910年〉フォードが自動車の大量生産

1911年(M44)
〈113年前〉

部落有の全財産を、村有地に統合
村内の各無格社を久那止神社に合祀
(村名を採って「中和神社」と改称)



カゴ(背負い籠)

〈1913年〉空気中の窒素を使える方法(化学肥料)を発明

1914年(T3)
〈110年前〉

初和に用水路用隧道93m完成(大正田の水路)

〈1914～18年〉第一次世界大戦

【大正デモクラシーと護憲運動】
民衆に自由な空気と、憲法に基づいた民主的な政治を求める動きが広がっていった時代。

1915年(T4)
〈109年前〉

9月に大暴風雨(村内各地の大杉が倒れた)
「青年団」を設置(義務教育終了後から20歳まで)

1916年(T5)
〈108年前〉

中国製鉄(株)中和製材所が
一の茅に開設



中国製鉄株中和製材部のようす [大正8]

1918年(T7)
〈106年前〉

無集配郵便局が開設
(中島丈三郎宅)

本格的な政党内閣(原敬内閣)が誕生

1920年(T9)
〈104年前〉

人口:1,329人

〈1920年〉国際連盟が創設される

第1回国勢調査を実施
(内地人:5,596万人)



大正時代の中和小学校運動会のようす

1921年(T10)
〈103年前〉

隔離病舎が完成(下鍛冶屋)
中和村処女会が誕生
(女子青年団:会員60名)

〈1922年〉電灯の普及率が70%となる

1925年(T14)
〈99年前〉

人口:1,290人

〈1923年〉関東大震災(死者・行方不明者10万5千人)

1926年(T15) 電力の送電が始まる(新庄村作西水力電気(株)より)
<98年前>

※ この頃から、炭焼きが盛んになる

日本放送協会(NHK)設立

1927年(S2) 葉タバコ(備中葉)の栽培が始まる
<97年前>

特別高等警察(特高)が発足し、恐怖時代に突入した

1928年(S3) 役場に初めて電話が設置される
<96年前>
中和小学校の新築校舎落成

<1929年>世界恐慌が起こる

1930年(S5)
<94年前>

人口:1,402人

バス路線の開始(勝山—中福田間)

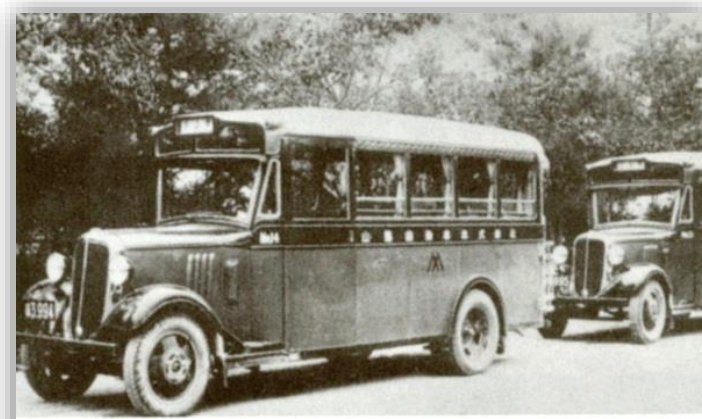
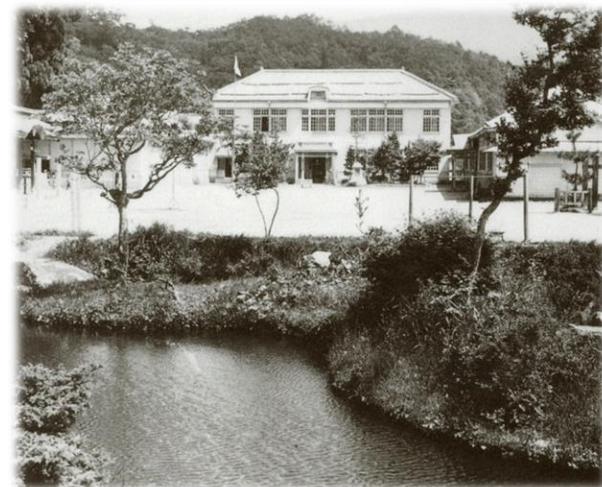
<1931年>満州事変起こる

東京が世界第2位の人口497万人に(1位はロンドン)

1934年(S9) 9月に室戸台風による大被害
<90年前> (住宅3戸が流出)

1935年(S10)
<89年前>

人口:1,393人



中国鉄道が作北のバス路線営業を開始 [昭和10]

〈1936年〉青年将校がクーデターを起こす(2.26事件)

1937年(S12) 日中戦争が勃発
〈87年前〉 (多数の在郷軍人が出征)

1938年(S13) 国民健康保険法による
〈86年前〉 「中和診療所」が開設

国家総動員法公布

〈1939年〉第二次世界大戦が始まる

1940年(S15) 人口:1,555人
〈84年前〉 (内地人:7,311万人)

〈1941年〉太平洋戦争が始まる



米の供出「昭和17」

1944年(S19) 初和に「松根油工場」
〈80年前〉 ができる(航空燃料)



航空燃料の松根掘り「昭和19」



校生徒による芝薙刈り「昭和11」



昭和15年頃の田植風景

戦後復興と民主化の時代

第二次世界大戦の犠牲者は6200万人に上った

1945年(S20)
〈79年前〉

広島・長崎に原子爆弾が投下

太平洋戦争が終結

「ポツダム宣言」受諾

農地改革が始まる(1945年～)

「日本国憲法」施行

1947年(S22)
〈77年前〉

「中和中学校」創立
(S27年に新校舎完成)

学校制度改革により
6・3制義務教育となる

「開拓農協」設立
(十数戸が入植)



中和小・中学校合同運動会の上りす [昭和25]

1948年(S23)
〈76年前〉

蒜山三村が、岡山県の南厚北薄の行政を
不満として鳥取県への分県運動が起きる

1950年(S25)
〈74年前〉

人口:1,708人

(日本の総人口:8,411万人)

1952年(S27)
〈72年前〉

「湯原ダム」の建設着工
(初和地区の20戸が水没)

※ この頃から、耕運機が普及



牛による農耕 [昭和27]



耕運機による農耕風景 [昭和27]

〈1953年〉NHKテレビ放送開始

1954年(S29)
〈70年前〉

ジャージー種乳牛を導入(24頭)
(5年後には155頭にまで増える)



「ジャージー種乳牛を初めて導入」[昭和29]

1956年(S31)
〈68年前〉

中和教育委員会を開設
2農協が合併して「中和共栄農協」
を設立(後に中和農業協同組合となる)

国際連合に加盟

1957年(S32)
〈67年前〉

町村合併について、村民大会
が開催される
中和小学校新校舎が完成



自転車サイクリング [昭和33]

「消費革命」…電気炊飯器や電器こたつ石油ストーブなどが一般化していった
【三種の神器:白黒テレビ・電気洗濯機・冷蔵庫】

1958年(S33)
〈66年前〉

小学校で、週5回の完全給食を実施
赤痢が発生し、小学校休校

1960年(S35)
〈64年前〉

人口:1,480人(高齢化率:7.2%)
夏大根の生産が始まる



昭和33年頃の下鍛冶屋(農協)

〈1960年〉「所得倍増計画」
を、池田内閣が掲げる

高度経済成長の時代

時代は『政治』から『経済』の季節へと移行していった。
人手が不足した第2・3次産業が、高給を提示して農村から働き手を引き抜いた。1955年に4割だった農業人口は、約20年間で2割となり、農村の過疎化が進んだ。

「国民皆年金」(1959年)と「国民皆保険」(1961年)の体制が整う

1962年(S37)
〈62年前〉

家庭用プロパンガスの普及が進む
("台所革命"と呼ばれた)

農業者人口が年間56万人減少し、
「三ちゃん農業」の新語が生まれる

1963年(S38)
〈61年前〉

農協が有線放送を開始(加入者:285戸)

冬期間の出稼ぎ者が増加

蒜山地区野菜生産連合会が発足

津黒に温泉が湧出(深さ280m)

1964年(S39)
〈60年前〉

別所に冬季分校を開校(S44年閉校)

米が藁俵60kgから麻袋30kgに変更

東京オリンピック(東海道新幹線が開業)

〈1960年代〉「三種の神器(3C)」(マイカー・クーラー
カラーテレビ)が流行語になる



【38豪雪】

中和小学校別所冬季分校が開校【昭和39】

東京が世界初の1,000万人都市に

1965年(S40)
〈59年前〉

人口:1,198人(高齢化率:9.8%)

中和幼稚園を開園

農協が「出稼ぎ便」を送る(対象者:131名)

〈1966年〉日本の人口が1億人を突破

1967年(S42)
〈57年前〉

定期バス開通(勝山・中和・倉吉間を1日2往復)

農業構造改善事業を開始(野辺地区)

大根集荷場が完成

〈1968年〉GNPが世界第2位となる

アポロ11号が月面着陸

1970年(S45)
〈54年前〉

人口:1,115人(高齢化率:12.9%)

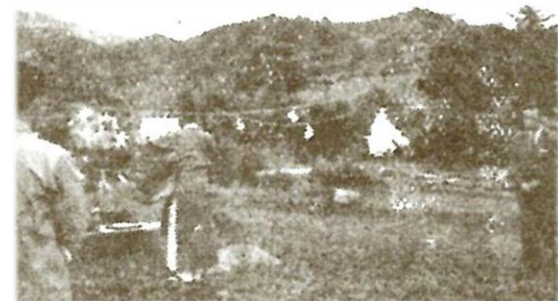
大根販売額が1億円を突破

「過疎地域」に指定

1971年(S46)
〈53年前〉

村営バスを運行開始

津黒に「村民センター」を開設



農業構造改善事業着工(野辺地区起工式) [昭和42]



農協大根集荷場作業風景 [昭和43頃]



中和村民センター完成 [昭和46]

過疎化に歯止めを！…企業誘致と観光立村へ

1972年(S47)
〈52年前〉

田中内閣の「日本列島改造論」により開発ブーム

縫製工場等を誘致
村有林(約400ha)を開発業者に売却(ゴルフ場計画)
※ 電話の普及が進む



尾崎縫製中和工場操業開始 [昭和47]

1974年(S49)
〈50年前〉

全国の地価が、32%上昇

国民宿舎「津黒高原荘」オープン

1975年(S50)
〈49年前〉

人口:1,053人(高齢化率:15.1%)
ライスセンターが完成(農協)
…農業の大型機械化が進む



中和村で初めて導入されたコンバイン [昭和48]



わらくろのある圃場風景 [昭和48]

1976年(S51)
〈48年前〉

青年クラブが第1回「ふるさと祭り」を開催
※ 囲碁クラブが発足(S52)

〈1977年〉国民の9割が「中流」意識

1978年(S53)
〈46年前〉

津黒高原スキー場が完成
…専門的農家を冬季就労の場として優先雇用

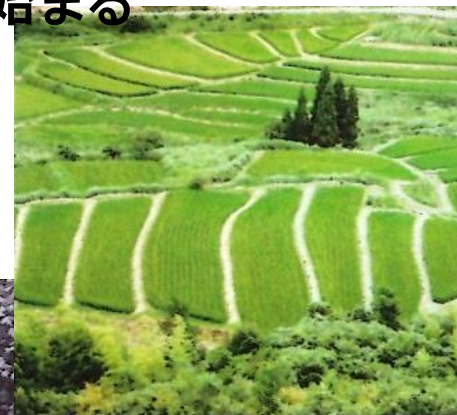
中国道が、県内全線開通(観光業が、大きく躍進)



津黒高原荘とフリーサイトキャンプ場 [昭和53]

1979年(S54)
〈45年前〉

花卉栽培(輪菊、リンドウなどの切り花)が始まる
学校給食が「米飯給食」になる



津黒の田園風景【昭和55】

1980年(S55)
〈44年前〉

人口:1,026人(高齢率:15.5%)

1982年(S57)
〈42年前〉

農林業文化祭を開催
(後に「中和紅葉祭」と改名)



除雪風景【昭和51】

米価が18,668円/俵

1984年(S59)
〈40年前〉

「青少年かたりべハウス」が完成
村づくりの任意団体「中和村の産業振興と活性化のための協議会」が発足(10年間活動)



中学生シンポジウム「未来村議会」開催【昭和61】

1985年(S60)
〈39年前〉

人口:987人(高齢率:17.2%)

1986年(S61)
〈38年前〉

中学生「中和未来村議会」を開催
「農業・農村まるごと体験村」を実施
(都市住民との交流を模索)



「バブル景気」が始まる

1987年(S62)
〈37年前〉

「中和村振興計画」を策定
…スローガン「豊かな兼業農家づくり」

投機(株と土地)に踊る
貿易黒字の縮小を迫られ、内需拡大
大型経済に向かって過剰に供給され
た円が、行き場を求めて狂奔。

「総合保養地整備法」(リゾート法)が成立

1988年(S63)
〈36年前〉

村単独で「営農資金貸付制度」を創設
(無利子融資:最大500万円)



1989年(H1)
〈35年前〉

「蒜山地域リゾート整備推進協議会」を設立
…全国の自治体が、リゾートブームに沸き立った



1990年(H2)
〈34年前〉

人口:923人(高齢化率:21.2%)
津黒オートキャンプ場を開設(県内初)

実原周治さんの「わさび漬」が岡山県
農産加工品コンクールで県知事賞を
受賞 [平成3]

〈1991年〉株価と地価が暴落、バブル崩壊が始まる

公務員「週休2日制」導入

1992年(H4)
〈32年前〉

米子道(落合一米子間)が開通
(太平洋(四国)と日本海(山陰)が高速道路で結ばれた)
国道313号「中和トンネル」が開通



国道313号中和トンネル開通 [平成4]

自立への模索(経済成長の限界のなかで)

Jリーグが開幕

1993年(H5)
〈31年前〉

真庭郡内の8農協が合併し「真庭農協」が発足

「中和リゾート構想」が凍結となる

1994年(H6)
〈30年前〉

「中和村定来住促進条例」制定

「ファーマーズビレッジ」を整備
(移住者用の住宅付き農業体験施設)

「村営(若者定住)住宅」を建設

「蒜山三ヶ村企業誘致連合推進協議会」を設立

「合併特例法」を改正(交付税の削減と期限付きの優遇措置)

1995年(H7)
〈29年前〉

人口:809人(高齢化率:31.9%)

養鶏場(15万羽)を誘致

「公共下水道事業」に着手

1996年(H8)
〈28年前〉

「中和文化協会」が発足



湯の谷地内の村営住宅が完成 [平成6]



第1回「遊雪トライアスロンinちゅうか」開催 [平成6]

1998年(H10)
〈26年前〉

第二次「中和村振興計画」を策定
…スローガン「若者が夢と希望をもって住める村づくり」
「中和村大運動会」を開始
(保育園・小学校・中学校・村民の合同運動会)



津黒川砂防公園完成「平成12」

1999年(H11)
〈25年前〉

「津黒いきものふれあいの里」オープン

「介護保険制度」始まる

2000年(H12)
〈24年前〉

人口:801人(高齢化率:35.3%)

2001年(H13)
〈23年前〉

「蒜山3村合併任意研究会」が発足
福本バイパスが完成(倉吉市が通勤・生活圏)



福本バイパス開通「平成13」

2003年(H15)
〈21年前〉

「真庭地域合併協議会」(8町村)発足

2004年(H16)
〈20年前〉

「合併協定」調印(9町村)

「平成の大合併」

自治体が3分の1に減少したこの市町村合併は、一言
でいえば「理念なき合併」であった。
ミニ中央集権ともいえる広域合併によって、特に周辺
地域においては、地域住民による意思決定(民主主義
=自治)の機能が弱まり、活力を失いつつある。

広域町村合併で「中和地域」に…

〈平成の大合併〉市町村数が、3,232から1,821に(約44%減)

2005年(H17)
〈19年前〉

「真庭市」が誕生

人口:731人(高齢化率:35.9%)



2006年(H18)
〈18年前〉

中和小学校の新校舎完成

中和中学校が閉校(蒜山中学校に統合)

真庭農協と落合農協が合併(中和支所は給油所とATMのみに)

「尾崎縫製中和工場」が閉鎖

2009年「リーマンショック」が起こる

2010年(H22)
〈14年前〉

人口:675人(高齢化率:38.6%)

〈2011年〉東日本大震災が起こる



「真庭・トンボの森づくり」が津黒の森でスタート〈2012年〉

2013年(H25)
〈11年前〉

薬師寺と本興寺が福王寺(八束)に移転
(三ヶ寺の持仏堂・客殿を新築し、両寺とも取り壊された)

新たな「地域づくり」へのチャレンジ

2014年(H26)
〈10年前〉

全世帯に地域づくりに関する「アンケート調査」を実施
「中和いきいきプロジェクト」の取組みが始まる

2015年(H27)
〈9年前〉

人口:669人(高齢化率:40.8%)

「(社)アシタカ」(地域づくり会社)が設立
「中和地域薪生産組合」が発足



中和地域ガイドパンフレット
「ゆるるか中和」を発行



小学生も「竹筒燃料」づくり

2016年(H28)
〈8年前〉

「地域づくり委員会」が**移住・定住**
対策を進める方針を決定

「真庭なりわい塾」が中和を
フィールドとして開塾

「中和の新鮮とどけ隊」が発足
(会員:9名)

…家庭野菜を道の駅で販売
する仕組みができる



2017年(H29)
〈7年前〉

「中和いきいきサポーターズ倶楽部」発足
(小学校・保育園、地域づくりの応援団)

「空き家調査」を実施

…15棟の空き家が活用できることが判明
(空き家率は約23%)



中和の名水「津黒泉水」
を整備



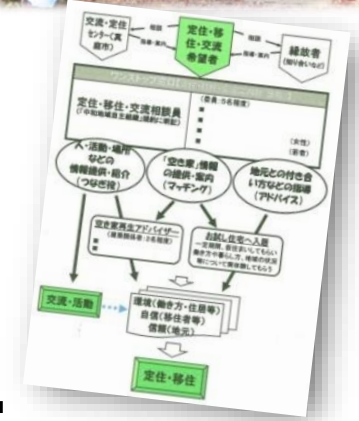
2018年(H30) 津黒に「冒険の森」がオープン(アシタカ)
(6年前)

中和地域づくり委員会が「過疎地域自立活性化
優良事例表彰」を受賞

集会拠点「えがお商店」を開設
(旧平岡商店)



「中和定住案内所」を
開設(定住相談員5名)



2019年(R1) 中和小学校が「コミュニティスクール」に指定
(5年前)
中和小学校(地域学校協働本部)が「文部科学大臣賞」を受賞

新型コロナウイルスによるパンデミック

2020年(R2) 中和「ふるさと祭り」「紅葉祭」を中止(2年間)
(4年前)

2021年(R3)
〈3年前〉

2020年度の**人口が増加**に転じたが...

(真庭市の旧町村エリアで唯一)

【人口:600人(11人増)、世帯数:257世帯
(4世帯増)、高齢化率:45.3%(0.7%減)】

22世帯が移住(48人)
20軒の空き家に
灯りがともった
(令和5年度末現在)

2022年(R4)
〈2年前〉

少人数**教育・保育の魅力化**へ
(関係者の合意形成→地域に情報発信)

- ・「中和いきいき学習科」(特例校へ)
- ・「山村留学」の検討
- ・「自然保育」の充実



地域の助けあいによる**公共交通**づくりへ
(「中和コミュニティ交通検討委員会」を設置)

3年ぶりに「ふるさとまつり」「紅葉祭」を開催

2023年(R5)
〈1年前〉

中和小学校が「教育課程特例校」に指定
（「中和いきいき学習科」創設）



「ちゅうか里山留学協議会」
を設立



新型コロナウイルスが終息へ(5類に移行)

地域づくりの財源確保へ

「中和ふるさと納税」(地域指定寄附に返礼品を贈
る)の体制づくり→募集開始(10月)

→ 約146万円のふるさと納税(寄附)が集まる

2024年(R6)
〈本年〉

デマンド型コミュニティバスの
自主運行を開始(ソーシャルビジネス)



「里山留学生」の受入れ開始(1名)

「中和ふるさと応援事業」(独自の自主事業)を開始

中和では約10年前から、3つの目標(①中和小学校の存続、②稼ぎをつくる、③心豊かなコミュニティ)を共有し
“できる人が、できるコトを…”を合言葉に、様々な地域づくり活動に取り組んできました。

これからも、6つのビジョン(生きいきとした人々が、多様な働き方をしながら、子どもたちを育み、自然を大切にして、安全に安心して暮らせる、心豊かなコミュニティ)を充実し、魅力ある持続可能な地域づくりに頑張っていきましょう!

冒険の森 in ひるぜん OPEN!



中和の未来ビジョンと推進プロジェクト

生きいきとした人々

なりわい塾



空き家プロジェクト



紅葉祭



ふるさと祭り



優良な空き家の不足

集落機能の低下
(担い手の高齢化)

豊かな人間関係

つながりプロジェクト



コミュニティ交通



安全・安心

農地等の維持・保全

ヘルシーライフの目

中和の名水



自然の恵

自然保育



いきいき学習



児童数の変動
(2025年問題)

よい教育



里山留学



サポーターズ
倶楽部



野菜プロジェクト



ふるさと納税
(返礼品)

多様な働き方



新プロジェクト

津黒高原観光の再生・存続

安全・安心

人も地域も「時代の子」

しかし
未来(時代)を切り拓いていくのは私たち！

私たちは
「微力ではあるが、無力ではない」